

延岡市学校教育研修所

I	研究主題と副題	3-1-1
II	主題設定の理由	3-1-1
III	研究目標	3-1-1
IV	研究仮説	3-1-2
V	研究構想	3-1-2
VI	研究組織	3-1-2
VII	研究内容	3-1-3
	1 土曜授業に関するアンケート調査	3-1-3
	2 土曜授業の実際	3-1-6
	3 平日のゆとりの活用	3-1-7
	4 土曜授業推進のための情報発信	3-1-8
VIII	成果と課題	3-1-10
	○ 引用・参考文献	
	○ 研究同人	

I 研究主題と副題

豊かな学びを創造する土曜授業の在り方

～ 土曜授業の効果的な在り方に関する調査研究 ～

II 主題設定の理由

本市は、平成18年2月に旧北方町・北浦町、平成19年3月に旧北川町と合併し、現在の延岡市となった。全国平均を上回るスピードで進行している本市の少子高齢化に伴い、児童生徒数も年次的に減少傾向であるという現状を鑑みると、今後の学校の活力や児童生徒に対する地域の教育力の低下などが不安視されている。

このような状況を踏まえ、本市では、平成24年9月に「わかあゆ教育プラン」を策定し、「自分と郷土に『誇り』をもち、明日に羽ばたく人間性豊かな子どもの育成」を目指して、義務教育9年間を通じた小中一貫教育と教育コミュニティで育む教育を積極的に推進している。

小中一貫教育については、小中一貫校を含め、市内すべての小・中学校が中学校区ごとに連携し、一貫性・連続性のある教育を展開している。また、教育コミュニティづくりについては、さまざまな教育活動において積極的に保護者や地域の方々と連携・協働しながら、地域に開かれた特色ある学校づくりに取り組んでいる。

さらに、児童生徒に対して、今まで以上にきめ細かな指導・支援の充実を図り、教育コミュニティづくりのさらなる推進を目指して、平成27年度より、市内すべての小・中学校で土曜授業を試行している。延岡市の土曜授業の目的は、(1)教育コミュニティづくり及び開かれた学校づくりの推進、(2)土曜日に実施することの利点を生かした多様な教育環境の提供、(3)平日のゆとりの確保の3つである。平成27年度は年12回、平成28年度は年9回の土曜授業を実施している。

土曜授業を試行するにあたり、本研修所では、昨年度、研究主題を「土曜授業（試行）調査研究」とし、土曜授業の教育的効果について、調査研究を通して検証してきた。土曜授業に関するアンケート調査を実施したことにより、教職員や保護者、地域の方々の意見を集約し、本年度の土曜授業の参考とすることができた。また、土曜授業を実施したことで、学校が核となり、地域の教育力を生かした授業を展開でき、多くの学校が教育コミュニティづくりを推進することができた。しかしながら、通常の授業のみを行う学校もあり、多様な教育環境を提供した「土曜ならではの授業」を展開できていないという課題が見られること、土曜授業の目的や意義を教職員のみならず地域・保護者にもより一層理解してもらう必要性のあることが明らかになった。

そこで、本年度も昨年度と同じく、土曜授業の在り方の研究を進め、土曜授業の3つの目的が達成できているのかを明らかにすることとした。このような取組を通して、本市の「わかあゆ教育プラン」の実現と本市の教職員へ本研修所の研究内容を広げるという目的を達成できると考え、本主題、副題を設定した。

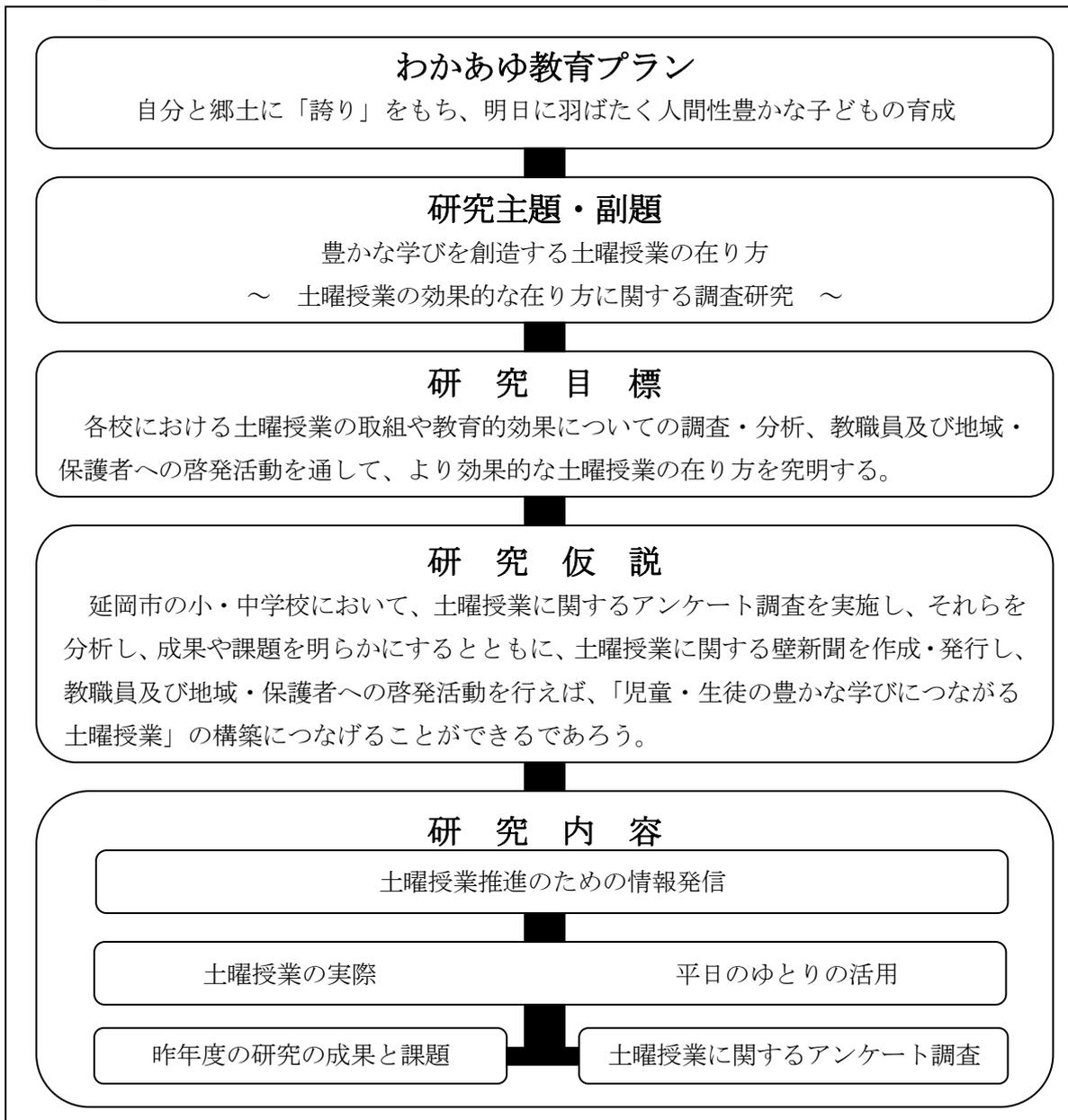
III 研究目標

各校における土曜授業の取組や教育的効果についての調査・分析、教職員及び地域・保護者への啓発活動を通して、より効果的な土曜授業の在り方を究明する。

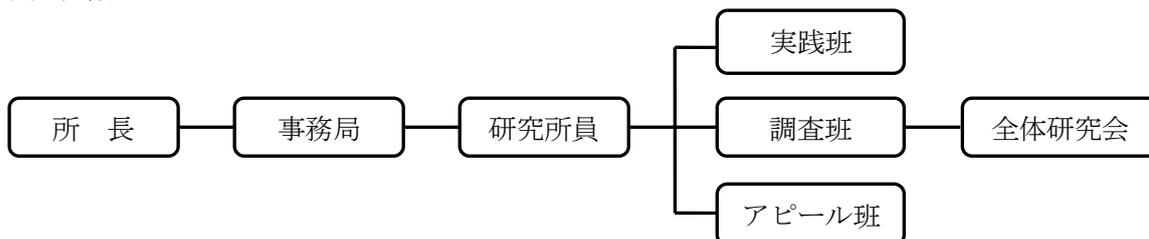
IV 研究仮説

延岡市の小・中学校において、土曜授業に関するアンケート調査を実施し、それらを分析し、成果や課題を明らかにするとともに、土曜授業に関する壁新聞を作成・発行し、教職員及び地域・保護者への啓発活動を行えば、「児童・生徒の豊かな学びにつながる土曜授業」の構築につなげることができるであろう。

V 研究構想



VI 研究組織



VII 研究内容

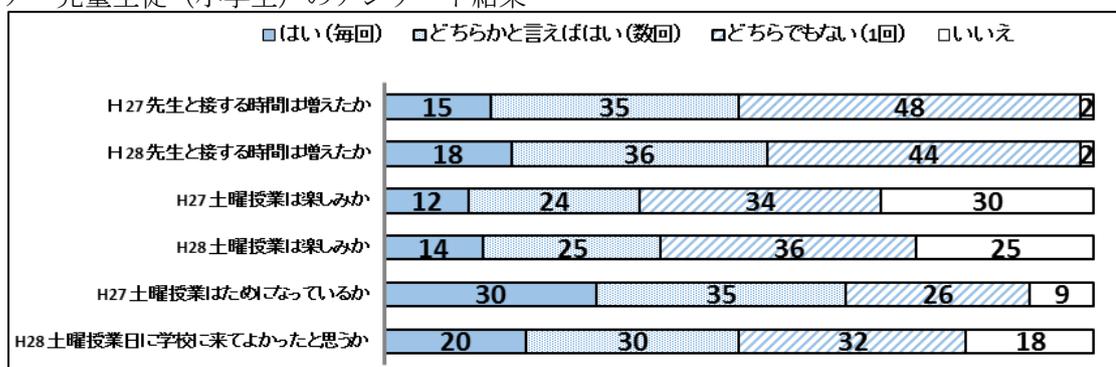
1 土曜授業に関するアンケート調査

昨年度と同様に土曜授業に関するアンケート調査を行った。

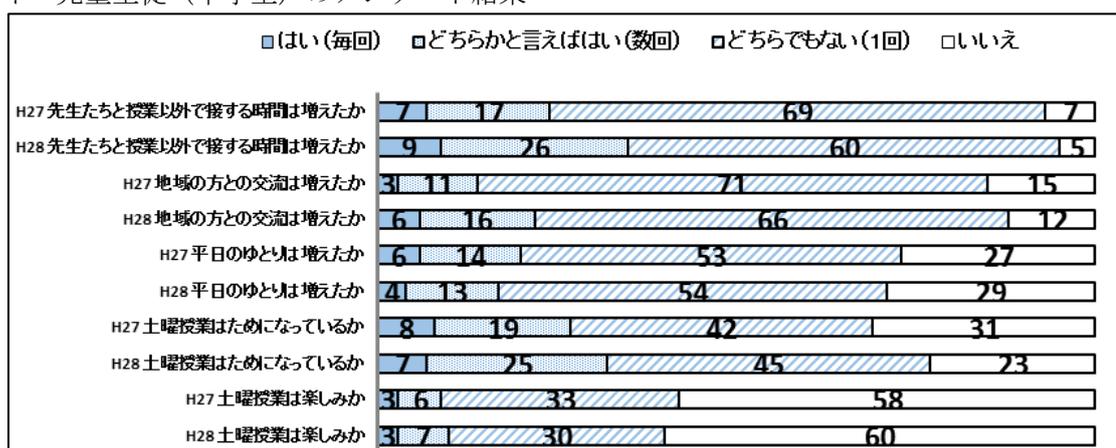
対象は児童生徒、教職員、保護者、地域住民である。そのアンケート結果を昨年度と比較し分析した。また、自由記述の欄に多くの意見が書かれていたため、その内容をまとめた。

(1) アンケート結果

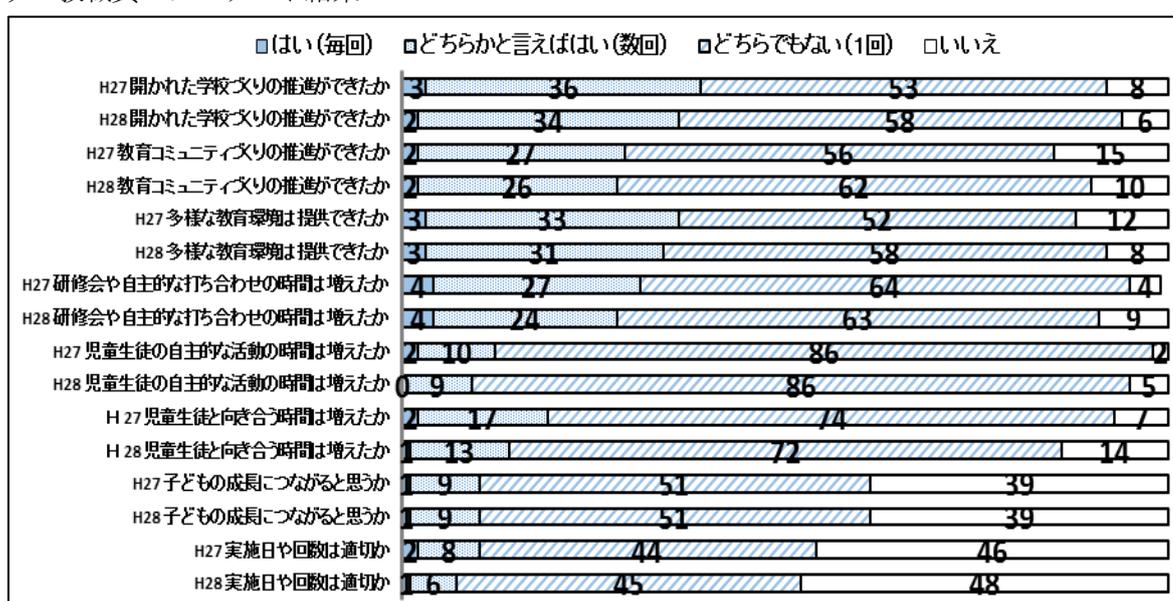
ア 児童生徒（小学生）のアンケート結果



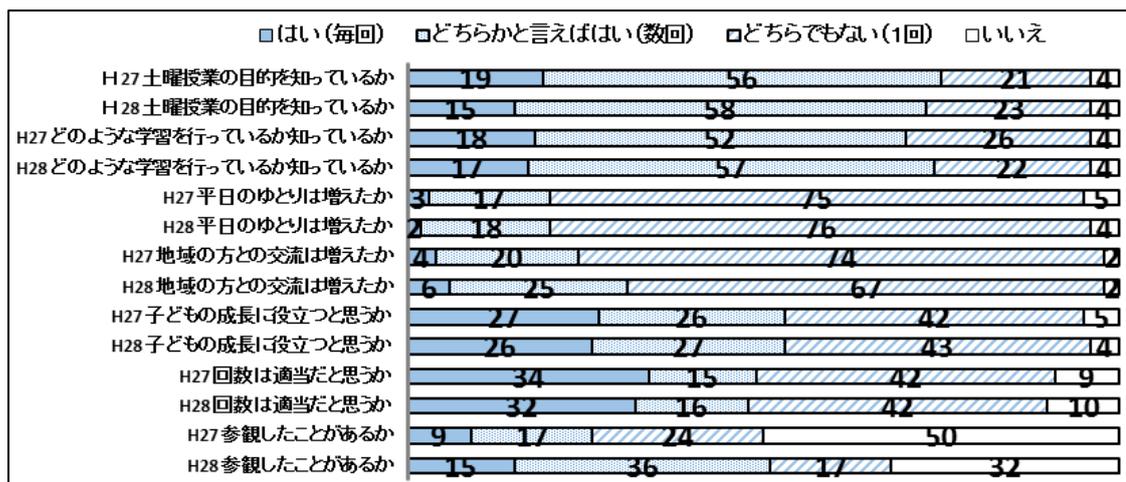
イ 児童生徒（中学生）のアンケート結果



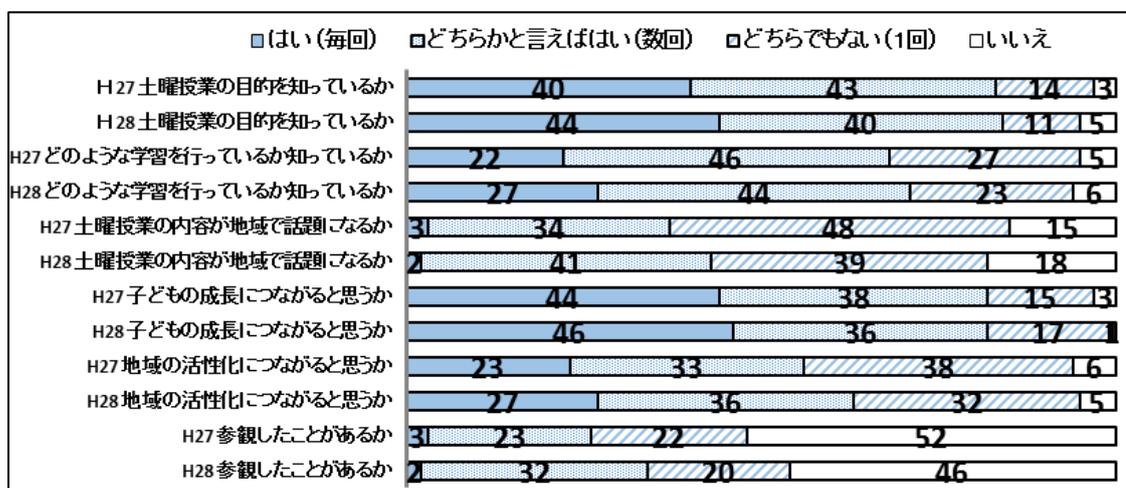
ウ 教職員のアンケート結果



エ 保護者のアンケート結果



オ 地域住民のアンケート結果



(2) アンケートの考察

ア 児童生徒について

- ・ 全体的には、昨年度と同じ結果になった。
- ・ 地域の方との交流が増えたと感じる児童生徒がやや増えた。

イ 教職員について

- ・ 全体的に、土曜授業に否定的な傾向が見られた。
- ・ 特に、土曜授業の実施日や回数については、否定的な意見が多かった。

ウ 保護者について

- ・ 土曜授業を参観する保護者が増えた。
- ・ 土曜授業の回数については、肯定的な意見が多かった。

エ 地域住民について

- ・ 全体的に肯定的な意見が多かった。

(3) 自由記述のまとめ (一部抜粋)

ア 小学生 (よかったと思う授業)

- | | | |
|------------------------------|--------------|--------|
| ・ ケータイ安全教室 (情報モラル教室) | ・ 校内安全マップづくり | ・ 平和学習 |
| ・ 地域の方との交流会 (七夕祭り、グラウンドゴルフ等) | ・ 地域での避難訓練 | ・ 農家訪問 |
| ・ ようこそ先輩 (卒業生の声を聞く会) | | |

イ 中学生（ためになった授業）

- ・先輩の声を聞く会
- ・キャリア教育講演会（職業人講話）
- ・進路学習（高校調べ）
- ・人権講話
- ・教科の授業（復習、テスト対策）
- ・地域の歴史学習
- ・認知症サポーター講座
- ・シーカヤック体験

ウ 教職員

- 様々な人の話を聞くことができた。
- 教職員の負担は増えるが、生徒の生活習慣は向上していると実感する。
- 土曜授業により、職員も生徒も疲労感がたまって逆効果である。学習意欲、労働意欲ともに低下し、効果は見られない。
- 週明けに体調を崩す生徒が多い。地域での活動も土曜日に行われていて、延岡の子ども達だけが参加できない。教職員も県が行っている土曜日の講義や自主研修に参加できないなど不利なことが多い。
- 延岡市だけの取組であり不公平感がある。また、大会等への参加のために事故欠扱いになる生徒もいる。
- 半日だが、電話や来客対応等が大変である。事務職員も土曜出勤してほしい。

エ 保護者

- 学問や学習の場として有効だと思う。また、生徒同士のコミュニケーションを深める意味でも良いと思う。
- 部活をしていない子どもは、自宅で過ごすより土曜日に学校で活動するのも良いのではないかと。地域の方との交流が増えることも良いが、学習面でも助かっている。
- 土曜授業の中で、奉仕作業や地域交流となるような活動などを組み合わせていて、自分の住む町について、より良く知ることができた。
- 不定期ではなく、定期的の実施してほしい。
- 延岡市内のみの取組であり、スポーツ活動（少年団や部活動）で県大会に出場する際、土曜授業と重なることがある。
- 週末は、家族と一緒に家庭で様々な経験ができる時間としても貴重である。家庭での時間を大切にしたい。

オ 地域住民

- 普段の授業では体験できない内容も取り込まれているため、児童生徒は貴重な体験ができていると思われる。
- 地域にとらわれず、色々な人と交流することで、健全育成や将来への希望、そして地域への理解が深まると思う。
- 自宅にいるより学校に行っている方が、生活リズムが整って良い。
- PR不足。地域住民と一緒にする授業は特定の人だけが知っているように思われる。もっと地域住民に発信する手立てを考えてほしい。
- 実施が延岡市だけなので、他地区で実施されるスポーツ大会やオープンキャンパスなどの参加を考えなければならない。

※ アンケート調査を実施し、土曜授業ではどのような取組をしているのか、また、土曜授業によって生み出された時間をどのように活用しているか、情報発信する必要性を感じた。

2 土曜授業の実際

延岡市内の各小中学校では、児童・生徒に多様な教育環境を提供するために、次のような視点をもとに、土曜授業の取組を行っている。

- (1) 家庭・地域と連携した体験活動（地域資源の活用）
- (2) 豊富な知識や経験をもつ社会人等の外部人材の協力・活用（企業等との連携）

上記の視点に基づいた教育環境を提供している事例について紹介する。

(1) 家庭・地域と連携した体験活動（一ヶ岡小学校の実践）

9月3日の土曜授業において、6年生を対象に7名の保護者を講師として招き、それぞれの職業を紹介するポスターセッションを実施した。

本学習は、働くことの意義を知り、公共のために役立つ意欲を高めることをねらいとしている。

この学習を行うことで、将来の職業選択やその仕事に就くために必要なことに関心をもたせることができた。また事後の感想の中には、「将来の夢を叶えるために、6年生としてできるあいさつやボランティアをがんばりたい」などの記述もあった。



(2) 豊富な知識や経験を持つ社会人等の外部人材の協力・活用

① 三川内中学校の実践

9月3日の土曜授業において、全学年を対象に、「南日本ハム株式会社」の出前授業を行った。

これは、延岡市のゴミの現状を身近な問題として考えさせることをねらいとしている。

授業では、ゴミ分別についてのグループワークを行ったり、資源ゴミの出し方について学んだりした。

この学習を通して、「本市は『ゴミ減量十箇条』の方針を出していること」や「市民1人あたり1日1kgのゴミを出していること」「現状のままゴミ処理をしていくと、ゴミ処理場が19年で満杯になること」など、本市のゴミ問題の現状について知ることができた。生徒は、ゴミ問題解決のために自分たちにできることを真剣に考えていた。



② 名水小学校の実践

9月3日の土曜授業において、全学年を対象に、宮崎大学農学部海洋生物環境学科の海洋科学博士・村瀬敦宣助教授を講師として招き、講義を聞いたり、魚釣りや観察体験を行ったりした。

本学習は、地域や環境を大切に思う気持ちを育み、人間的なふれあいを深めるとともに、児童が自らの生き方について考えることをねらいとしている。本学習を通して、本校校区である赤水地区の海について詳しく知るとともに、児童同士及び教師との交流を図りながら、魚釣りをしたり海辺の観察をしたりすることで、楽しい思い出をつくることができた。

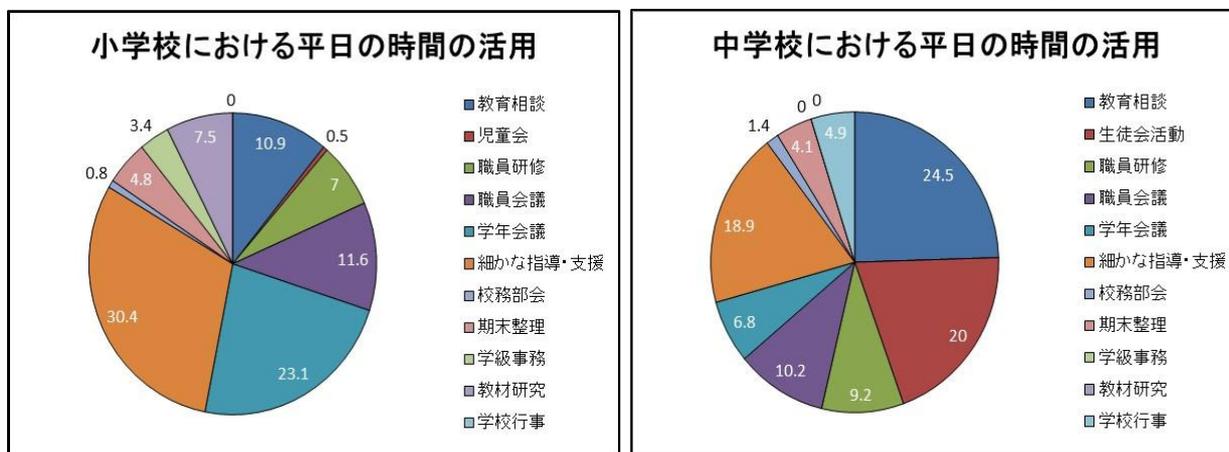


3 平日のゆとりの活用

本年度は、年間総授業時数を変えずに土曜授業を実施しているため、土曜日の授業時数分の平日の授業を減らし、平日に生まれた時間を各学校が工夫して活用している。

(1) 平日のゆとりの活用の状況

土曜授業を実施する目的の一つに「平日のゆとりの確保」がある。各校ではどのように平日のゆとりを活用しているのかを調査したところ、以下のような結果となった。



上のグラフのとおり、今年度の土曜授業実施分（3時間×9日）の活用の仕方は小学校と中学校で若干の違いはあるものの、児童生徒一人一人に対する「きめ細かな指導・支援の充実」を目指した取組が共通に行われている。

(2) 平日のゆとりの活用の実例

① 西小学校の実践例（児童と向き合う時間の確保）

○ 6月18日（土）分の活用例（同一週の授業をカット）			
6/14（火）	6/16（木）	全学年 1時間	全学年ともに3時間の活用 教育相談と 学力向上を目指した指導
6/15（水）		下学年 1時間	
6/17（金）		上学年 1時間	
○ 9月3日（土）分の活用例（同一週の授業をカット）			
8/29（月）	2～3年	1時間	全学年ともに2時間の活用 学年・学級事務と 個人面談（保護者）ができる時間
8/30（火）	1～2年	1時間	
8/31（水）	1年	1時間	
9/1（木）	3～6年	1時間	
9/2（金）	4～6年	1時間	

② 北浦中学校の実践例（学力向上）

○ 6月18日（土）分の活用例（校内の定期テスト直前に活用）			
月曜日	1年生	6時間目	帰りの会后30分間…選択した教科（国・社・数・理・英）で教師に質問しながら学習又は自主学習 さらにその後30分間…自主学習
火曜日	2年生		
水曜日	3年生		
※ 5教科の担当教師は、生徒の質問に対応できるように各教室で待機し、その他の教師は各学級を巡回しながら指導を行う。			

4 土曜授業推進のための情報発信

(1) 保護者や地域への発信

土曜授業の実践内容を、地域の新聞社やケーブルテレビを活用し、保護者や地域に広く発信することができないかと考え、新聞社への土曜授業特設ページの掲載や、ケーブルテレビでの特集を依頼しようと計画した。しかし、既に各学校から直接報道各社への取材依頼がなされていることも多くあり、土曜授業をより推進していくためには、各学校の主体性を尊重する方がより効果的であると考え、本研究では行わないことにした。

(2) 教職員への発信（壁新聞の発行）

教職員に向けた壁新聞のタイトルを「土曜授業はD o y o u ?」とし、全小・中学校に効果的な土曜授業についての情報を発信した。

この「D o y o u ?」には、「土曜授業をどのように理解していますか」という意味を含め、最終号には「Y o u D o !」に変えることで「土曜授業をがんばりましょう」という願いを込めた。

第5号（実質6号）までを発行し、その発行時期と内容は以下の通りである。

号数	時期	内 容
1	9月	・ 全国や九州各県の土曜授業の状況 ・ 延岡市の土曜授業の目的や昨年までの取組の紹介
2	10月	・ 昨年度における「平日に生まれた時間」の活用例
3	11月	・ 今年度における「平日に生まれた時間」の活用例 (西小学校・北浦中学校)
4-1	2月	・ 本年度の各班の研究実践紹介（実践班）
4-2	2月	・ 本年度の各班の研究実践紹介（調査班）
5	3月	・ 本年度の研究のまとめ

各学校へ配付された壁新聞は校内の目にしやすい場所に貼られ、情報提供や理解を促す場となった。



壁新聞を読み、情報を得る職員の様子。話題の材料にもなり、それぞれの考えを交流する機会ともなった。 【写真（左）西小学校、（右）恒富小学校】

また、壁新聞を発行することにより、教職員の土曜授業に対する理解が深まったのかどうかを検証するために、抽出校（小学校7校・中学校4校）へのアンケート調査を実施した。アンケート結果は、次のとおりである。

壁新聞を読んだか	回答数	%
ア 詳しく読んだ	30	20
イ 読んだ	77	50
ウ 少し読んだ	30	19
エ 読んでいない	17	11
「土曜授業の目的」が分かったか	回答数	%
ア 詳しく分かった	22	15
イ 分かった	87	58
ウ 少し分かった	30	20
エ 分からない	10	7

「土曜授業の実際」が分かったか	回答数	%
ア 詳しく分かった	25	17
イ 分かった	79	53
ウ 少し分かった	35	23
エ 分からない	10	7
「平日に生まれた時間の活用」が分かったか	回答数	%
ア 詳しく分かった	17	12
イ 分かった	70	48
ウ 少し分かった	39	27
エ 分からない	19	13

掲示する場所の工夫は必要であったが、壁新聞を読んだ人が9割弱に到達し、土曜授業の目的や実際などについて伝えることができた。しかし、「平日に生まれた時間の活用」については、どの学校も児童生徒と向き合う時間として活用されてはいたものの、教職員にとっては「平日に生まれた時間を有効に活用できている」と実感できていない現状もあり、内容が伝わりにくかったと思われる。しかしながら、土曜授業について考える場を設定することができ、土曜授業を共につくり上げていかなければならないという一石を投じることができた。また、延岡市学校教育研修所の研究内容についても、各校教職員へと伝えることができた。

「土曜授業壁新聞」(第3号 平成28年11月)

土曜授業は、DoYou?

(発行 平成28年度延岡市常任研究員)

第2号で扱った「土曜授業によって生まれた平日の時間」を、各学校はどのように活用しているのか、興味深いところです。常任研究員の間でも話題にのぼり、早速、各校の教務主任の先生方にアンケート調査を行いました。その結果は下記の通りです。

小学校における平日の時間の活用

中学校における平日の時間の活用

上のグラフのとおり、今年度の土曜授業実施分(3時間×9日)の活用の仕方は、小学校と中学校で若干の違いはあるものの、児童生徒一人一人に対する「きめ細かな指導・支援の充実」を目指した取組が共通に行われています。それでは、どのような取組がなされているのか、具体例を見てみましょう。

「平日に生まれた時間」の活用はDoYou?

【教えて！「延岡市立西小学校」の活用法！

土曜授業実施週に児童と向き合う時間を確保!

■本校では、直接的に児童と向き合う時間を重視しています。□

例1 6月18日(土)の活用例
6月14日(水)全学年1時間、15日(木)1～3年1時間、16日(金)全学年1時間、17日(土)4～6年1時間
合計3時間・・・教育相談と学力向上を目指した指導ができる時間として活用。

例2 7月2日(土)の活用例
6月27日(月)5～6年1時間、29日(水)1～3年1時間、30日(木)全学年1時間、7月1日(金)全学年1時間、1日(土)4年1時間
合計3時間・・・教材研究及び個別指導ができる時間として活用。

例3 9月3日(土)の活用例
8月29日(月)2～3年1時間、30日(水)1～2年1時間、31日(木)1年1時間、9月1日(金)3～6年1時間、2日(土)4～6年1時間
合計2時間・・・学年・学級事務、及び、個人面談(保護者)ができる時間として活用。

例4 1月21日(土)の活用例
1月16日(月)2年1時間、17日(水)全学年1時間、18日(木)全学年1時間、19日(金)1年3～6年1時間
合計3時間・・・教材研究及び個別指導、学年研修会、学力向上プロジェクト会議に活用する予定。

【成果と課題】

- 教育相談や個別指導ができる時間として活用したり、保護者との個人面談を行う機会を設けたりしたことで、直接的に児童と向き合う時間が充実した。
- 全学級、全児童に対して教育相談を進めながら、その他の児童には、学力向上に向けた自主的な学習に取り組ませることができた。
- 夏休み明けの学級事務の時間を確保したことで、担任の負担感を減らすことができた。
- 教育相談中にその他の児童が取り組む学習内容について、基礎的・基本的な内容と発展的な内容とを準備し、個に応じて取り組むことができるよう、さらに充実させる必要がある。

【教えて！「延岡市立北浦中学校」の活用法】

■本校では「北浦タイム」(学力アップ週間)を実施しています。□

■主に校内の定期テスト対策を優先し、【国語】【社会】【数学】【理科】【英語】【自習】のコースに分かれ、生徒が事前に質問しながら、自分が解けない問題を解決する。

【運営方法】

① 15:35～16:05
拂りの会終了後、30分は各教科の希望コースに分かれて学習に取り組む。
自習については各教室で行う。

★会場：5教科の先生の待機場所

実施日 【質疑応答年】	自習	国語	社会	数学	理科	英語
6/13(月) 【1年】の教室	各学級の 学習室	2年 学習室	3年 学習室	1年教室	会議室	遊学室
6/14(火) 【2年】の教室	各学級の 学習室	2年教室	3年 学習室	1年 学習室	会議室	遊学室
6/17(金) 【3年】の教室	各学級の 学習室	2年 学習室	3年教室	1年 学習室	3年 学習室	遊学室

② 16:05～16:25
希望者のみ、自主学習を行う。
※ 16:30までは、5教科の先生は各教室に待機し、質問がある生徒を待つ。
5教科以外の先生方は、各学級の教室を巡回する。

【成果と課題】

- 各学年とも、定期テストに向けて学習意欲が高まった。
- 日頃、係や生徒会等の仕事に追われる生徒たちが、落ち着いて学習できる雰囲気をつくることができた。また、質問することにより、日頃から自分の課題として感じていることを解決していく喜びを感じる生徒たちが増えた。
- 北浦タイムをさらに充実させるためには、生徒の質問以外に、教師側からの学習プリント作成などの準備が必要である。

児童生徒一人一人に「きめ細かな指導・支援」を行うために、「平日に生まれた時間」をどのように活用するのかは、本年度のみならず、今後も土曜授業を行う上で大きな課題ではないでしょうか。次号は、今年度の「延岡市常任研究員」の取組を紹介します。次号もお楽しみに。

【土曜授業壁新聞例 「土曜授業は、Do You?」 第3号】

3 - 1 - 9

VIII 成果と課題

1 成果

- 土曜授業に関するアンケート調査を実施したことにより、土曜授業の課題が明確になり、次年度以降の実施方法に生かすことができた。(平成29年度土曜授業の実施要項)
- 土曜授業壁新聞の発行は、土曜授業に関する教職員の理解を深める一助となった。

2 課題

- 土曜授業実施によって生まれた平日の時間の使い方や、多様な教育環境を提供する土曜ならではの授業の在り方について、さらに研究を深める必要がある。
- 職員の勤務や振替の在り方などの整備に努めるとともに、職員の土曜授業に対する意欲を高め、多忙感を解消する取組が必要である。(土曜ならではの授業を展開するシステムの構築)
- 次期学習指導要領における授業時数増加(外国語活動・英語科の導入)に向けて、土曜授業をどのように関連させ、時数を確保していくのか検討が必要である。
- 土曜授業に関するリーフレットの作成など、保護者や地域への理解を深める手立てが必要である。

平成29年度「土曜授業(試行)実施要項」の変更点 ※次年度も試行である

- 土曜授業の目的
- 年間実施回数(8回)
- 土曜授業の実施によって生まれた平日の時間を、各教科等の授業に充て、授業時数として計上可能、児童生徒と向き合う時間の確保
- 年に3回程度は、家庭や地域、企業等と連携した教育活動を計画
- 冬季休業中の閉庁日を明記

○ 引用・参考文献

- 平成28年度「わかあゆ教育プラン」
- 平成27・28・29年度「土曜授業(試行)実施要項」
- 教職研修(2014.2月号)「新『土曜授業』は学校に何をもたらすのか」
- 文部科学省(2013.12.26)「土曜日の教育活動支援に関する資料」
- 文部科学省(2014.7.25)「公立小・中・高等学校における土曜日の教育活動実施予定状況調査」結果
- 文部科学省(2016.3.7)「平成27年度公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査」結果
- 県外自治体の土曜授業についてのリーフレット、チラシ等

○ 研究同人

延岡市学校教育研修所	所長	山口 昇
延岡市学校教育研修所	事務局長	花岡 道義
延岡市教育員会学校教育課	指導主事	中野 敬
常任研究員	統括主任	日高 克哉(恒富小学校)
東坂 将秀(岡富小学校)	武藤 匡史(西小学校)	黒原 永遠子(南方小学校)
日高 啓光(土々呂小学校)	田中 健(一ヶ岡小学校)	松田 奈緒子(岡富中学校)
加藤 博之(東海中学校)	地神 涼介(南方中学校)	永田 文昭(北浦中学校)